



熊本地震から10年



被災直後の熊本城 (ACフリー素材より)

平成28年4月14日に九州地方で初の最大震度7を記録(前震)し、4月16日にも最大震度7を記録(本震)した熊本地震から10年が経過しました。震度7の揺れが28時間以内に2度発生するという、観測史上、例を見ない大規模災害でした。275名の尊い命が失われ、20万棟近くの家屋被害が生じました。また、熊本県のシンボルである熊本城は傷つき、阿蘇地域も至る所で土砂災害が発生し、道路が寸断されるなど、大きな被害を受けました。亡くなられた方々へ哀悼の意を表するとともに、被災されたすべての皆様にお見舞い申し上げます。

鉄道の被害も甚大でしたが、九州新幹線が13日間の復旧作業で全線運転再開するなど、早期復旧は地域の方々に夢と希望を与えました。鉄道は、多くのお客様さまの“命”と“生活”を運ぶ公共交通として、重要な役割を担っています。この間、東日本大震災や能登半島地震の被災状況を目の当たりにして来ました。今後、南海トラフ地震や首都圏直下型地震など、発生する確率が高くなっています。

私たちは、仲間の命と利用者の安全を守るため、安全を最優先に行動することが求められています。そのためには、「災害を正しく恐れ、日ごろからの防災意識の向上」に努めていかなければなりません。

JTSUは東日本大震災を教訓に、防災ハザードマップの作製や災害に対する学習、現地踏査や自宅での災害用の備蓄など、命を守るための防災・減災の必要性を再認識するだけでなく、被災地域と連携した復興、原発に依存しない再生可能エネルギーのあり方など、未来を見据えた「安全・安心」で「持続可能な社会」の実現に向けた取り組みを今後も展開していきます。

防災の基本は、「自助」・「共助」・「公助」です！